

下里

～農業と戦争～

話し手 新井 太一郎さん

聞き手 子安 千央

中村 友弥

(埼玉県立松山高校映像制作部)

1 下里の農業

私が農業を手伝い始めたのは、5歳くらいのときだったかねえ。

下里は野菜はあんまり作ってないんじゃないかな。お米を作ってるところが多いと思うよ。前は私は蚕もやっていたけどねえ。

農業は一年かけてやっていくんだ。春は苗代でいって、箱にもみを振ってな、芽を出させるやつを作ってるんだ。そして夏はな、田転がしていうのをやっているよ。それで草を刈るんだ。今は大きい機械を使ってるんだけどね。秋は収穫だね。でもそれだけじゃないんだよ。収穫したところに麦をまくんだよ。二毛作って言ってね、昔は米をとって麦をまいてって二回やっていたからねえ。冬は麦踏をしたり、他には俵を作ったりしたよ。その俵は60キログラムもあるからね、おぼさんなんかはひもを使ってしょっていたよ。今の人がだったら腰やっちゃうよ。

そして、麦を収穫するのはだいたい6月とか7月あたりだよ。

2 下里と戦争

戦争が起こっていたときは、私は駅の近くの本屋のあたりにあった軍事工場で働かされていたよ。だから戦場に行っていない。でも、私たちの一つ上の人たちは戦場に行き、最前線に立たされていたよ。そういう人たちはほとんど戻ってこれなかったねえ。

軍事工場では、飛行機の部品なんかを作らされていてな。働いていたのはだいたい今でいう中学2、3年生の人たちかなあ。昔は小学6年生の次が高等1年、2年…だったけどね。長い間働かされたからね、いくら慣れて工具の名前とかも覚えていたよ。

食べ物なんて全然なかったから大変だった。サツマイモのジャガイモのしか食われねえんだもの。しかも、それらを友達やら兄弟たちと分け合って食べたからな。

3 コラム～下里の採石～

下里では採石をやっている。しかし、良い石はあまりとることができず、クズと呼ばれる悪い石ばかり採れてしまい、それを積み上げることによって、でかいボタ山が出来てしまうらしい。



割石青石採石跡地

(取材日 平成 26 年 7 月 30日)

新井太一郎さん

昭和6年の1月16日生まれ。8人兄弟の長男である。

4 取材を終えての感想

新井さんから話を聞くことができ、自分にとってとてもいい経験になりました。新井さんがよく言っていた「昔の人は、お米を食べればうんと働く、今の人は遊んでばかりで駄目だ」という言葉を聞いて、怠けてばかりではだめだと、改めて反省しました。

こういったことが聞ける機会はとても少ないので、この機会を設けてくれたことを本当にありがたいと思います。この経験を生かして、下里について深く調べていくことができたらいいなと思っています。